



デジタル教科書の問題点が解説された酒井教授の講演
=東京・永田町で

デジタル教科書の問題点

原始的に、記憶するときにはたくさんのムダな情報を取り込むことで自分なりの知識を確立していく。その過程は時間がかかる」のだという。こうした問題意識から酒井教授は「アナログとデジタルのバランスを取りなければいけない」と私は考えます。紙の教科書やノートが主であって、あくまでもデジタルは従。そうしないと教育そのものの質が低下していく」と話した。

「簡単にネット検索などができると、確かに便利だが、考える前に調べてしまつて咀嚼する前に調べてしまつて。考えようとしている。考えただけでスマホで検索が始まっているんです。自分で考えて咀嚼するのではなくなり、「書き写して覚える」こと、メモを取る能力、書字の能力にまで影響が及ぶ。大学の教壇に立つ酒井教授は「現場で痛感している」とこんな体験を明かした。

「簡単な手がかりに欠け、記憶に残りにくい」と嘆いた。デジタル化しても教科書の内容は紙の教科書と同じではないかとの意見には、酒井教授が「デジタル化された教科書の内容は記憶に非常に残りにくく、学習にとっては相当なマイナスだ」と指摘した。

デジタル教科書の導入が本格検討される中、紙で読む教育の大切さを訴える「活字の学びを考える懇談会」主催の講演会が一日、東京・永田町で開かれた。脳科学を研究する酒井邦嘉・東京大学院教授が「デジタル化された教科書の内容は記憶に非常に残りにくく、学習にとっては相当なマイナスだ」と指摘した。



民主主義の大切さを次世代に 東京新聞のNIE

要領のいい学生ほど検索飛びつき、考え方どうとしないなど。それが学習なんだと勘違いしている」。これはバカバカしい。書いてあるモノを探してくれればいいんだと。それが学習なんだとかない情報の中で論理を組み立てたり取捨選択したりする過程が省かれてしまう。

学びがタブレットやスマホの端末で完結しがちで「紙のノートは使わなくなる。メモを取れない学生が増える」という。その結果、限られた

少ない情報の中で論理を組み立てたり取捨選択したりする過程が省かれてしまう。

飛びつき、考え方どうとしない

といふ。その結果、限られた

少ない情報の中で論理を組み

立てたり取捨選択したりする

過程が省かれてしまう。

飛びつき、考え方どうとしない

といふ。その結果、限られた

少ない情報の中で論理を組み

立てたり取捨選択したりする

過程が省かれてしまう。

飛びつき、考え方どうとしない

といふ。その結果、限られた

少ない情報の中で論理を組み

立てたり取捨選択したりする

過程が省かれてしまう。

実体なく記憶残りにくい